

1-2 今回の交通需要推計における留意点

現在の道路整備五箇年計画（以下、「現五箇年計画」）における交通需要の推計を見直し、今回は、次に示す2つの点に留意して、推計を行った。

- 将来の社会経済状況の変化に対応した将来交通需要の推計
- 長期的な道路計画の検討に資する2050年までの推計

（1）将来の社会経済状況の変化に対応した将来交通需要の推計

これまでの道路整備五箇年計画における全国の将来交通需要推計は、人口、GDPの社会経済フレームを外生値として、全国一律のトレンドモデルによって推計されてきた。しかし、長期的な交通需要推計においては、人口の減少、高齢化の進行等、これまでの全国一律のトレンドによる推計だけでは、十分に反映されない要因が多数存在する。そのため、これら社会経済要因の影響を反映すべく、従来の方法を改良し、交通需要推計を行った。

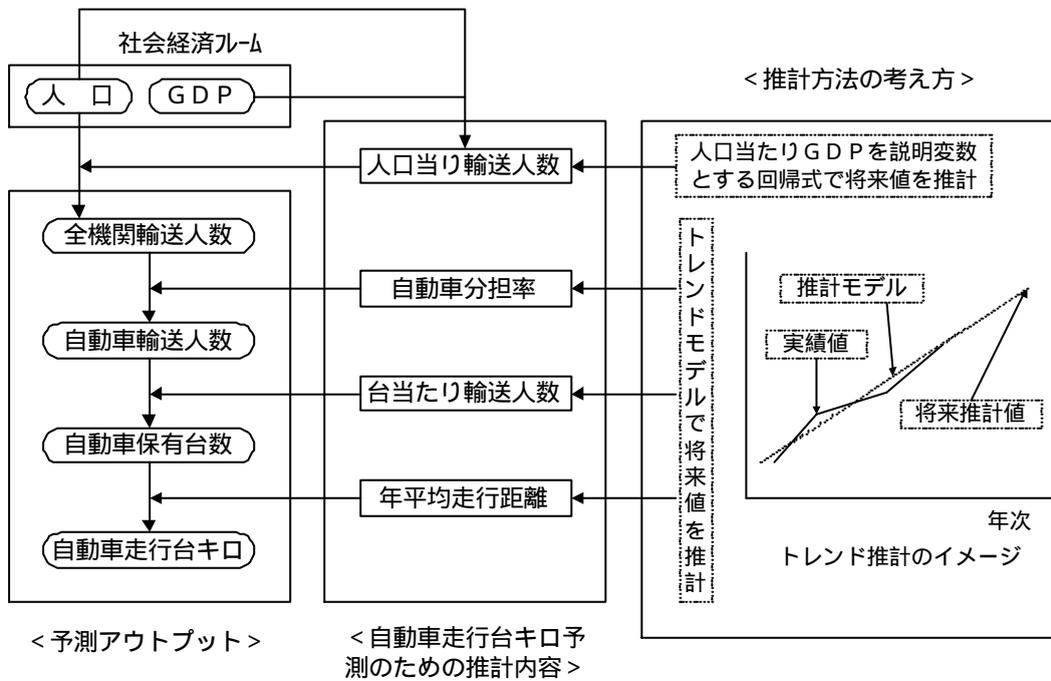


図 現五箇年計画における交通需要推計の考え方

（2）長期的な道路計画の検討に資する2050年までの推計

現五箇年計画における交通需要推計の年次は、2020年までとしていたが、将来の長期的な人口減少や高齢化の進行等の将来交通需要への影響、将来交通需要の有料道路の償還計画や個別路線の事業評価等への影響を把握することが、今後の道路政策を検討するうえで重要な課題となってきた。そのため、今回の推計においては、2050年までを推計年次とした。